

特 許 協 力 条 約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 21 APR 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 J S O N Y - 4 5 1 P C T	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 0 3 / 1 3 8 3 2	国際出願日 (日.月.年) 29. 10. 2003	優先日 (日.月.年) 20. 11. 2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ G 1 1 C 1 1 / 4 0 7		
出願人 (氏名又は名称) ソニー株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☒ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 24. 03. 2004	国際予備審査報告を作成した日 20. 03. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 堀田 和義	5 N 8 4 4 0
電話番号 03-3581-1101 内線 6840		

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3-10, 12-14, 16-17	有 無
	請求の範囲	1, 2, 11, 15	
進歩性 (IS)	請求の範囲	4-10	有 無
	請求の範囲	1-3, 11-17	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-17	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 2001-135080 A(松下電器産業株式会社)2001.05.18,
段落【0008】 , 【0009】 , 【0013】 , 第8図 & US 6349072 B1

文献2 : JP 8-255107 A(株式会社東芝)1996.10.01, 全文, 第3図

【請求の範囲1-2】

請求の範囲1-2に記載された発明は、国際予備審査で新たに引用した文献1の段落【0008】 , 【0009】 , 【0013】 及び第8図に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

【請求の範囲3】

請求の範囲3に記載された発明は、文献1と国際調査報告で引用された文献2とにより進歩性を有しない。

要求信号にかかるメモリセルのアドレスと、増幅器に一時保持されているデータのアドレスとを比較してページヒットを判定するのは周知である。

【請求の範囲4-10】

請求の範囲4-10に記載された発明は、文献1、2に対して進歩性を有する。

文献1、2には、要求されたメモリセルのアドレスと増幅器のデータのアドレスとを比較し、一致しないとき、電荷蓄積動作・電荷取り出し動作・入出力動作を1つの単独クロックを同期のタイミングとして一度にまとめて処理させるように指示を出すことが記載されておらず、該構成によって、高効率なデータ処理を行えるようにするという有利な効果を奏するものである。

【請求の範囲11, 15】

請求の範囲11, 15に記載された発明は、文献2の第3図に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

【請求の範囲12-14, 16-17】

請求の範囲12-14, 16, 17に記載された発明は、文献1と文献2とにより進歩性を有しない。

文献1の段落【0008】 , 【0009】 , 【0013】 及び第8図に記載されているように、周波数が低い場合に、リード/ライトサイクルとプリチャージサイクルを組み合わせ、1つのサイクルとして処理することは、当業者にとって容易である。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
--------------	------------------	------------------	------------------------------

JP 2004-259318 A
E, X

16. 09. 2004

24. 02. 2003

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	----------------------------------------

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

1. 請求の範囲 4 には、「前記増幅器について当該情報記憶装置の外部に対する入出力動作、前記メモリセルから前記増幅器までの電荷を取り出す電荷取り出し動作の順番で、」と記載されているが、該順番は、逆でないかと思われる。
請求の範囲 8 についても、同様のことが言える。
2. 請求の範囲 8 に記載された「一致するとき」は、「一致しないとき」の誤記と思われる。
3. 請求の範囲 10 には、同期クロックの周波数に応じて、入出力動作と、電荷蓄積動作の順番が切り換わるかのように記載されているが、本願の発明を実施するための最良の形態の欄には、同期クロックの周波数に応じて、入出力動作と、電荷蓄積動作を、別のサイクルで行うか、同一のサイクルで行うかが切り換わる旨記載されており、両者の記載は整合がとれない。